

# 大学における研究データ管理： データポリシーを起点として

松原 茂樹  
(名古屋大学情報基盤センター)

# 大学における研究データ管理

## ・大学のRDMのあり方

- 現状 研究者/研究Gr が設けた基盤  
(システム, ルール) で推進
- 今後 大学が提供する基盤  
で構成員がRDMを推進  
(=研究データガバナンス)



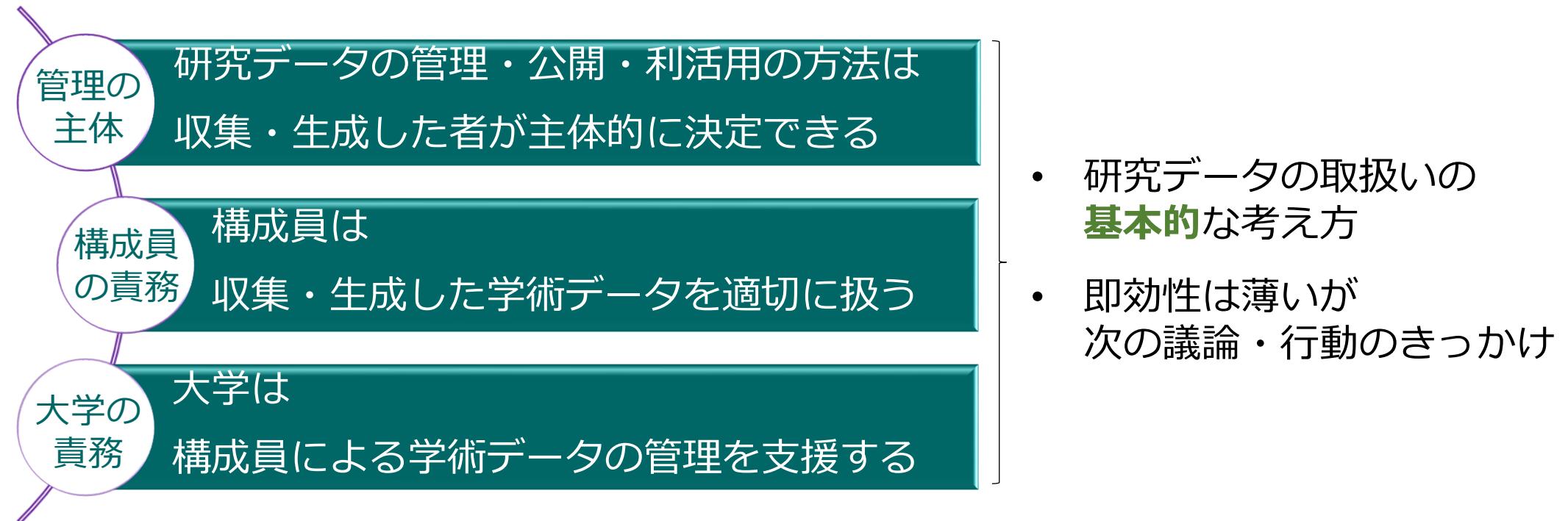
構成員が**安全かつ効率よく**研究し  
大学の**研究力を高める**仕組み

RDMを支える  
両輪

# 研究データポリシーの策定

## (例) 名古屋大学 学術データポリシー

<http://www.icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/>



# データポリシー策定の次のアクション：生成AIの回答は？

## チャットRDM [2024.12~]

<https://slp.itc.nagoya-u.ac.jp/e-science>



### チャットRDM



大学で研究データ管理を推進します。データポリシーの策定は完了しています。次に学内で研究データ管理を進めるために、どんな行動をするのがよいでしょうか。



大学で研究データ管理を進めるためには、以下の行動が推奨されます。

1. \*\*関係者の意識向上\*\*: 教職員や学生に対して、研究データ管理の重要性を周知するためのワークショップやセミナーを実施します。
2. \*\*具体的なガイドラインの提供\*\*: 研究データの管理や保存に関する具体的なガイドラインや手順書を作成し、学内に配布します。
3. \*\*支援体制の構築\*\*: 研究データ管理を支援する専門チームを設け、相談窓口を設置します。これにより、研究者が必要な情報やサポートを受けやすくなります。
4. \*\*データ管理手法のトレーニング\*\*: 研究者がデータを効果的に管理できるよう、データ管理手法やツールに関するトレーニングを提供します。
5. \*\*フィードバックの収集\*\*: 研究者からのフィードバックを定期的に収集し、ポリシーや支援体制の改善に役立てます。

これらの活動を通じて、学内の研究データ管理が一層活性化することを目指します。

1. FD, セミナー
2. ガイドライン, 手順書
3. 支援体制
4. 教材, 人材育成
5. フィードバック収集

質問を入力



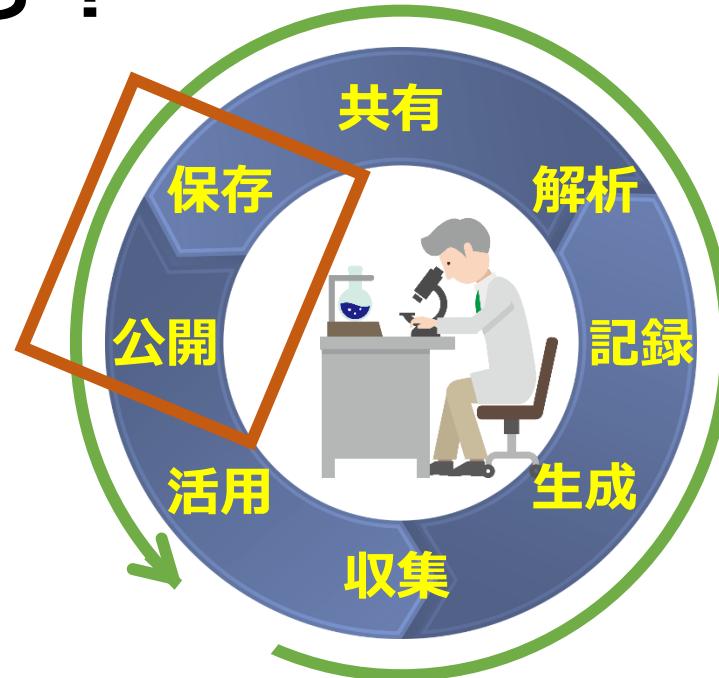
# データポリシーを起点とした研究データ管理

ポリシー策定の次のアクションは？

1. (対象) 研究データ管理の全体か部分か
2. (システム) 研究データ基盤の導入
3. (ルール) ガイドラインの策定
4. (DMP) DMP作成の支援
5. (啓発) 人材育成、研究者啓蒙
6. (体制) 学内の推進体制、アクションプラン策定

# (1) 大学のRDM支援：どこから？

- 研究データのサイクルの『出口』から整備
  - 外部から活動が見える
  - 研究者と大学の行動の曖昧さが少ない



研究公正の施策の実効性（保存）

- 研究の正当性の説明のために **（研究者を守る行為）**

オープンアクセスの推進（公開）

- 即時OAの義務化に向けて **（研究の評価を高める行為）**

# (1) 大学のRDM支援：研究データの長期保存

- (例) 研究データ保存の学内規程

研究資料等（試料及び標本を除く。）の保存期間は、原則として、当該論文等の発表後10年間とする。

- 東海国立大学機構における研究上の不正行為に関する取扱規程（第6条）

## 研究不正防止策

- 研究データ10年保存の**実効性**
  - 査読付論文の責任著者（＝PI）は大学が提供する「**研究データ保管システム**」に研究資料を保存
  - 論文の根拠データ（及びその処理手順）が保存の対象
  - 著者の大学離籍後も10年間保存



名古屋大学

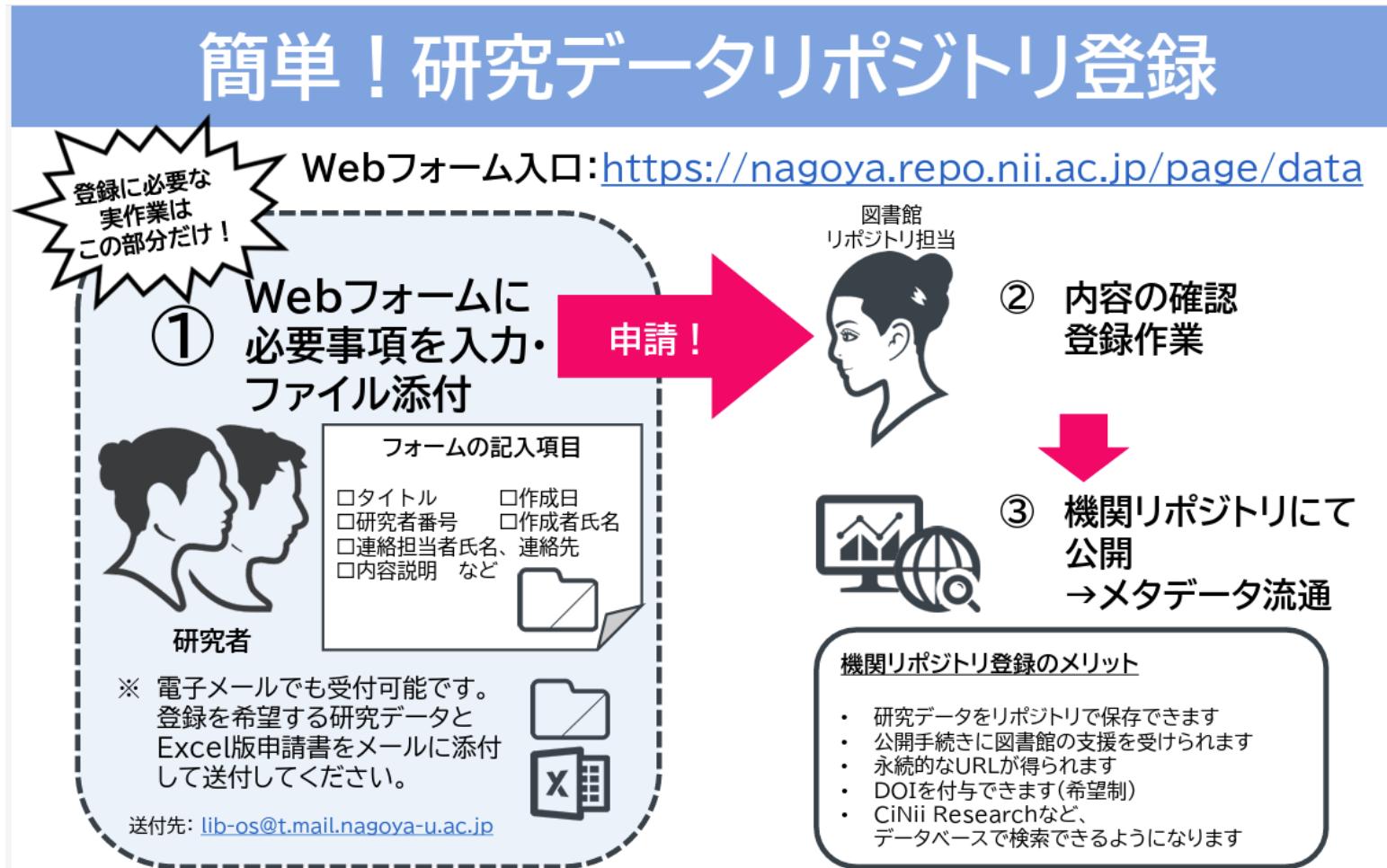
学術研究・産学官連携推進本部  
Academic Research & Industry-Academia-Go

› 研究データ保管システムの利用について（学内専用） 

研究データ保管システムの利用方法について、ご案内します。

# (1) 大学のRDM支援：オープンアクセス推進

- （例）**附属図書館オープンサイエンス・オープンアクセス支援**  
<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/oap/os/>



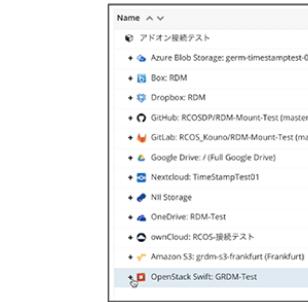
## (2) 研究データ基盤の導入と利用

 GakuNin RDM を用いた研究データ保管と公開  
<https://rcos.nii.ac.jp/service/rdm/>

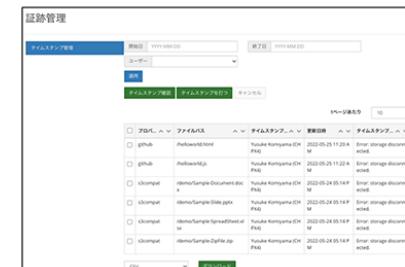


研究データの管理と共有

研究データのメタデータの管理



外部ツールやクラウドとの連携

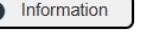


研究データの証跡管理



**JAIRO Cloud 連携機能**  
<https://support.rdm.nii.ac.jp/about/repository/>

名古屋大学学術機関リポジトリ  
**NAGOYA Repository**

名前 / ファイル	ライセンス	アクション
 <a href="#">data_master_thesis_nomura2020Ver2 (335.8 MB)</a>		 <a href="#">ダウンロード</a>  <a href="#">Information</a>
<b>Item type</b> データ・データベース / Data or Dataset(1) <b>公開日</b> 2021-02-12 <b>タイトル</b> 稻武観測所におけるMIM-Piで記録された磁気データ <b>タイトル</b> 稻武観測所におけるMIM-Piで記録された磁気データ <b>言語</b> ja <b>その他の言語のタイトル</b> 稻武観測所におけるMIM-Piで記録された磁気データ <b>その他のタイトル</b> Magnetic field data recorded with MIM-Pi at Inabu observatory <b>言語</b> ja		

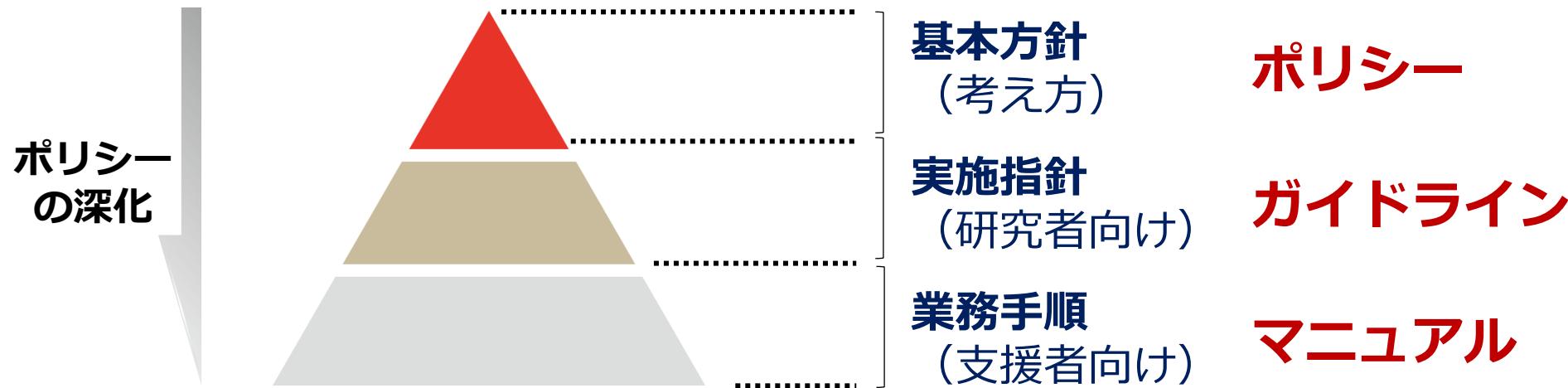
<https://nagoya.repo.nii.ac.jp/>



 GakuNin RDM

### (3) 研究データ取扱いガイドライン：ポリシーを起点に

- 研究データガバナンス強化に向けたルール・ガイドライン整備の戦略



- データポリシーは「基本的な考え方」を提示
- ポリシーに基づき、**“研究データ取扱いガイドライン”**を策定
- 研究者によるガイドライン遂行を支援する業務手順書を整備

### (3) 研究データ取扱いガイドライン

(例) **研究データの管理・公開・利活用ガイドライン** [2025.3承認]

<https://rdm.nagoya-u.ac.jp/html/research-data-guidelines-open/>

- **研究データ管理**
- 研究サイクル

1. ガイドライン
2. 研究の準備
  - データ管理
3. 研究の実施
  - 研究データの収集
  - 研究データの分析
4. 研究成果の発表
  - 研究データの公開
  - 研究データの利活用

5. 参考情報

#### 2. 研究の準備

##### 2.1 研究データ管理責任者の役割

研究データ管理責任者とは、研究グループ内の大学構成員のうち、研究データの管理、公開、利活用について統括的な権限と責任を有する者をいう。研究グループの代表者であるPrincipal Investigator (PI) が想定される。研究グループに必ず研究データ管理責任者を配置すること。研究データ管理責任者が本学を離籍する場合には、研究データを管理する者が不在にならないように離籍前に対策を講じること。

##### 2.2 データ管理計画の作成

データ管理計画 (Data Management Plan (以下、「DMP」という。)) とは、研究データの保管、共有、保存等の管理計画をいう。研究データ管理責任者は、DMPを作成し、研究グループ内で保有し、必要に応じて適宜、更新すること。

/機関リポジトリ、データ公開基盤/  
/知的財産、教員データベース/

### (3) 研究データ取扱いガイドライン：実例（前半）

- ・大学ガイドラインが定める研究者の行動指針：  
(名古屋大学研究データ管理・公開・利活用ガイドライン（要約）)

#### 1. 研究データ管理責任者を明確にする

- ・研究ごとに、データの管理・公開・利活用を統括する  
**責任者（たとえば研究代表者＝PIなど）を必ず置く。**
- ・責任者が離籍する場合も、管理者不在とならない継続体制を確保。

#### 2. データ管理計画（DMP）を作成・維持する

- ・研究開始時に、どのようにデータを保管・共有・保存・公開・利活用するかを  
**「データ管理計画」に記載し、研究グループで共有。**
- ・研究終了後も必要に応じて内容を更新する。

#### 3. 適切な方法でデータを管理・保管する

- ・収集／生成されたあらゆる研究データを、消失防止のためにバックアップをとり、  
**安全かつアクセス可能なストレージに保存する。**
- ・個人情報や被験者データを含む場合は、法令や所属機関の規程を遵守し、  
必要な倫理審査を行う。

### (3) 研究データ取扱いガイドライン：実例（後半）

(続き)

#### 4. 共有・公開の方針を決め、必要な手続きを行う

- 研究データを他者と共有・公開するかを慎重に判断。  
共有・公開する場合は、誰がアクセスできるかを定義する。
- 公開先は、本学の機関リポジトリを優先。**他のリポジトリを使う場合も、利用条件やライセンス（権利）を明示する。
- 紙資料や標本なども、デジタル化/**メタデータ化**して識別可能に。

#### 5. 保持すべき研究データを適切な期間保存する

- 論文の根拠データや重要な成果を裏付けるデータは、**規程に従って長期間保存**する。  
**保存方法と期間は DMP** に明記。

#### 6. データの利活用と知的財産の管理を意識する

- 公開・共有した研究データが再利用されやすいよう、来歴や用途、利用条件などを付すことで**価値を高める**。
- データが知的財産に該当する**場合は、知財関連規程に従って対応

#### 7. 共同研究や外部との協力時には契約・規約を遵守する

## (4) データ管理計画 DMP

- DMP（データ管理計画）とはなにか・・・
- DMPをなぜ作るのか・・・
  - 誰のためのDMP？

### 1. 資金配分機関のため？

- 資金配分機関の求めに応じて作成する必要がある
- (大学の行動) 作成を支援する

### 2. 大学などの学術機関のため？

- 大学としてのDMP活用戦略を定める必要がある
- (大学の行動) 戦略を説明し構成員の協力を仰ぐ

### 3. 研究者 / 研究Gr のため？

- Gr内での方針を定め、研究者の「迷い」を減らす
- (大学の行動) DMP作成の効果と方法を説く

## (5) 研究データ人材の育成

- ・人材育成を整理する（対象と目的によって異なる）
  - ・誰を育成する？

### **支援者**を育成する

- ・教育プログラムの受講
- ・ワークショップ等の参加

### **研究者**を啓蒙する

- ・**長期的視点**：講義や研修などを設計
  - ・例えば、若手研究者向けカリキュラムなど  
(研究データエコ事業（人材育成チーム）の教材利用など)  
<https://osoaa-portal.osaka-u.ac.jp/>
- ・**短期的視点**：ルール遵守のための教育
  - ・ルール・ガイドラインをふまえた教材・FD

## (6) 大学の体制と行動計画づくり

- ・データポリシーを起点に



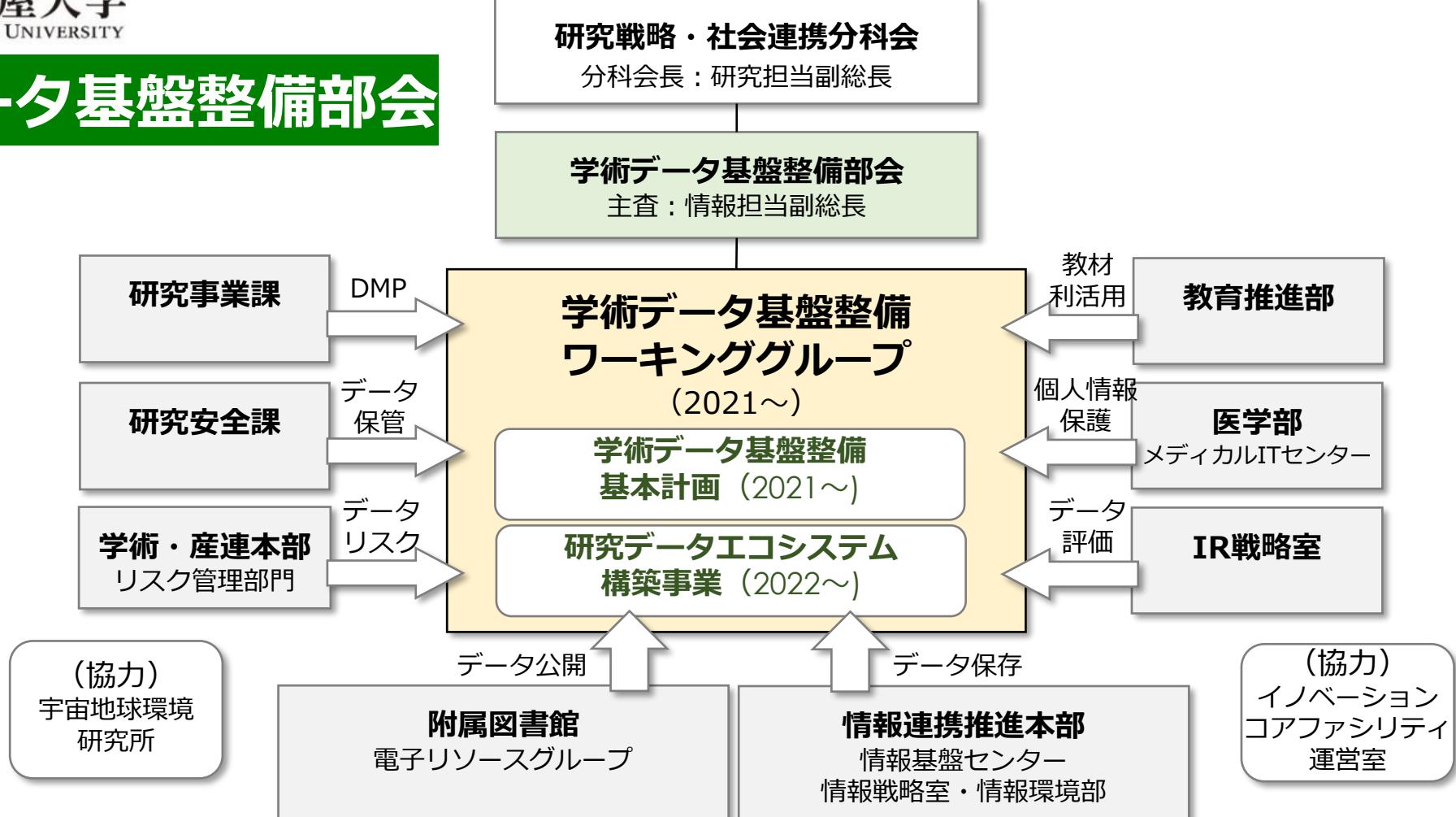
- 解説
1. 学術データを管理するための**データプラットフォーム**を提供する。
  2. 研究**データ管理計画**等、学術データの管理に関する計画や行動を支援する。
  3. 学術データを公開するための**データリポジトリ**を提供する。
  4. 公開する学術データの**メタデータ作成**を支援する。
  5. **共同研究**や**产学連携**、**アウトリーチ**、**授業**等での利活用を支援する。
  6. 学術データに関する**契約**、**法務**等を支援する。
  7. 学術データ管理の**取組みを奨励**し、また**実績を評価**する。
  8. 学術データの管理、公開、利活用に関わる**規程・実施要項**等を定める。
  9. 学術データの管理、公開、利活用に関して**啓発**する。

データポリシーの  
**解説**で例示された  
支援項目

# 推進体制の整備



## 学術データ基盤整備部会



学内の実務者メンバーからなる横断的な期限組織を整備 (2021~2026)

# 大学のアクションプランの策定

## 学術データ基盤整備基本計画 [2021~]

ポリシー	施策項目	ビジョン	内容 2021-2023
学術データの管理・公開・利活用の支援環境を提供	1. データプラットフォーム	学術データを大学が提供するデータプラットフォーム上で管理できる	4 施策 【情報/医/図書】
	2. データ管理計画	大学による支援のもと、研究助成機関の求めに沿ったデータ管理計画を作成できる	2 施策 【研究】
	3. データリポジトリ	学術データを、本学が提供するデータ公開基盤において公開できる	3 施策 【図書】
	4. メタデータ作成	公開する学術データに、国際的な相互運用性を備えたメタデータを付加できる	4 施策 【図書/情報】
	5. 利活用促進	学術データを、共同研究や産学連携、アウトリーチ、授業等で利活用できる	5 施策 【産連/図書/教育/情報】
	6. 契約、法務	学術データを、利用者との契約のもとで利活用に供することができる	1 施策 【WG】
	7. 嘉勵・実績評価	大学における学術データの管理、公開、利活用の取り組みを評価できる	3 施策 【IR/図書】
	8. 規程・実施要項	学術データの学内規程・実施要項が策定され、そのもとでデータ管理・公開・利活用を推進する	3 施策 【WG/教育/医】
	9. 啓発	大学構成員は、学術データを適切に管理し、可能な限りそれを公開し、利活用に供する	3 施策 【WG/図書】

# (まとめ) データポリシーを起点とした研究データ管理

## データポリシー策定に続く取り組み

- ・機関リポジトリでの研究データ公開
- ・実効性のある研究データ**10年保存**
- ・GakuNin RDM の導入と運用
- ・研究者向け**ガイドライン**の策定
- ・**学内体制**の整備
- ・大学アクションプランの作成

## その他の取り組み候補

- ・RDM**教材**, FAQ、手順書の整備
- ・大学DMPテンプレートの設計と運用
- ・「研究データエコシステム北海道コンソーシアム」に参画